

平成 22 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 22 年 10 月 27 日
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 ミカントゲコナジラミ *Aleurocanthus spiniferus* (Quaintance) (チャ系統)

2 対象作物名 チャ

3 発生経過および状況

- (1) 平成 22 年 10 月、県中遠地区において、チャに寄生するコナジラミが発生したと病害虫防除所に連絡があった。現地にて採集した個体を野菜茶業研究所金谷茶業研究拠点で同定した結果、ミカントゲコナジラミ (*Aleurocanthus spiniferus*) (チャ系統) であることが判明した。
- (2) チャ寄生性の本種は、平成 16 年に京都府で初めて確認され、その後、滋賀県、奈良県、三重県、島根県、福岡県、埼玉県、岐阜県、大分県、岡山県、兵庫県、愛知県において発生が確認されている。
- (3) 病害虫防除所が調査した結果、発生茶園周辺のツバキ科植物 (サザンカ) においても、本種の生息が確認された。
- (4) カンキツでこれまで発生していた従来系統とは異なり、本系統はカンキツに寄生しない。

4 特徴

(1) 形態

成虫の体長は雌が約 1.3mm、雄はそれよりやや小さい。前翅は黒紫色で不整形の白紋がある (写真 1)。卵は長さ 0.2mm の勾玉状で、短い柄があり、葉裏に産卵される。ふ化幼虫は淡黄色で、定着すると光沢のある黒色となり、4 齢を経て成虫になる。老齢幼虫は長さ約 1mm で、周囲と背面に多数の刺毛があり、周囲の白色ロウ物質が明瞭になる (写真 2)。

(2) 生態

本種は年 3～4 回発生し、成虫の発生時期は越冬世代が 5 月中旬、第 1 世代が 7 月上旬、第 2 世代が 8 月中旬、第 3 世代が 10 月上旬から下旬頃とされている。成虫の寿命は約 4 日間と短く、新葉の葉裏に産卵することが多い。

発生の拡大は、幼虫が固着した苗木の移動のほか、成虫の移動分散による。

(3) 寄主植物

チャ、サザンカ、サカキ、ヒサカキ等ツバキ類

5 被害

成虫及び幼虫により葉が吸汁加害されるほか、幼虫の排泄物によりすす病が発生する。発生が激しくなると収量が減少するなどの被害が生じる。

6 防除対策

- (1) 幼虫は下位葉の葉裏に多く生息し、一方、成虫は新葉の葉裏に集まりやすい。これらの部分をよく観察し、早期発見に努める。
- (2) 本種の発生が確認された茶園では、早期に薬剤による防除を行う。葉裏に薬剤がよくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 越冬時期にはマシン油乳剤の散布により防除を行う。
- (4) 一番茶摘採後に深刈りせん枝を行い幼虫密度を下げる。その際、摘採した枝葉は土中に埋める等適切に処分する。

7 その他 不明な点は、病害虫防除所、農林技術研究所、農林事務所、農協に相談する。



写真1 雌成虫

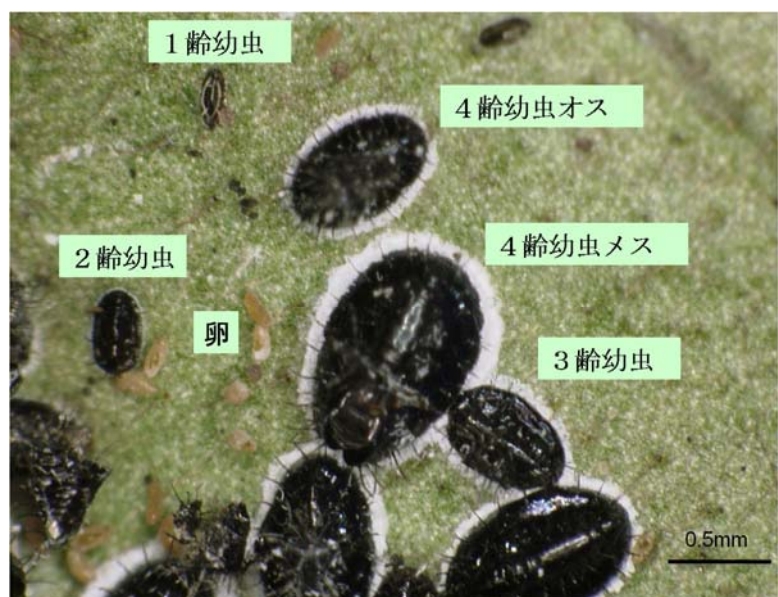


写真2 幼虫

写真提供：
久留米大学 上宮健吉博士